

ROTARY CLUB OF

NARA—WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2459

2022. 12. 1

創立 1969年(昭和44年)12月13日

例会日 毎週木曜日18:00より

事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地

例会場 奈良ロイヤルホテル内

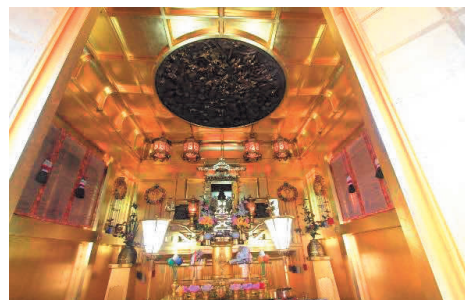
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2022～2023年度
国際ロータリーのテーマ

2022～2023年度
地区のスローガン



「感動、感激、そして感謝」



国際ロータリー会長
ジェニファー E. ジョーンズ

RI第2650地区ガバナー
尾賀 康裕

霊山寺 黄金殿内

会 長	渡邊 巖	副 会 長	吉村 信男	会長エレクト	中西 吉日出	直前会長	植野 洋志	幹 事	相澤 万裕子
会 計	東山 光秀	会場監督	加藤 又弘	理 事	福川 益則	理 事	寺田 信弘	理 事	安井 清悟
理 事	内藤 源美	会報委員長	金田 宗寛						

今月は 疾病予防と治療 月間 です

第16回(2459回)例会プログラム令和4年12月1日(木)

1. 年次総会
2. 開会宣言 点鐘
3. ソング 「君が代」「奉仕の理想」
4. 来訪者紹介
5. 出席報告
6. 会長の時間・理事会報告
7. ニコニコ報告・幹事報告・委員会報告
8. 卓話: 会長ノミニー
9. 閉会宣言 点鐘

第15回 (2458回) 例会報告 2022. 11. 17

ソング

「我らの生業」

来訪者紹介

関本 和弘 様 大念寺副住職布教師
関 嵐月さん 米山奨学生

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通 算 2458 回	42	5/8	22/34	12	69.2%
通算2458回修正	42	8/8	34/34	0	100.0%

会長の時間 (渡邊会長)

皆さん今晩は。ロータリー財団から当クラブへ2021-22年度中の財団への寄付実績に感謝して2点の認証バナーと感謝状が届きました。この表彰は会員一人あたりの年次基金への平均寄付額が100ドル以上であり、正会員全員が年次基金に少なくとも25ドル以上を寄付したクラブに対する表彰と会員一人あたりの平均寄付額が100ドル以上であり、正会員全員がポリオプラス基金に少なくとも25ドル以上を寄付したクラブに対する表彰です。当クラブは正会員一人あたり財団へ年200ドルの年次寄付と年30ドルのポリオプラス寄付を行っています。

11月27日(日)には青少年交換学生(貴志夏都君)の第2回研修会が開催されます。山川喜平委員長ご同行よろしくお願いたします。また国際ロータリーの年度最大行事である国際大会の案内が来ております。今年度は2023年5月27日～31日にオーストラリア・メルボルンにて開催予定です。会員並びにご家族の皆様で参加希望者は事務局にまで連絡下さい。なお最安料金で登録できるのは12月15日までだそうですので、参加希望者は早めに申込み下さい。

本日の卓話は融通念佛宗・大念寺の副住職である関本和弘様をお迎えしております。関本様は2021年10月30日、なら100年会館で開かれた「H1法話グランプリ2021」のグランプリ受賞者で、「もう一度話を聞きたいお坊さんのNo.1」です。楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

本日の会長の時間は、**がん**についてお話いたします。

がんは現代病だと思われがちですが、すでに古代エジプトから存在する病で、ミイラからがんの痕跡が発見されています。おそらく人類が登場した時点より存在していたと推測されます。がんの名称は古代ギリシアのヒポクラテス(医学の祖、紀元前5世紀)という医師が、乳がんが蟹の脚のような広がりを見せたところからかに座(Cancer)と同じ単語の「Cancer」と命名されています。日本では乳がんを触診すると岩のような固いしこりとして触れたため、岩を表す漢字「壺」の字に病垂を合わせて「癌」となりました。

最新の**がん統計(2021年)**では、日本人の三大死因は悪性新生物(26.5%)、心疾患(14.9%)、老衰(10.6%)で、この3つで死因の約50%を占めています。さらに脳血管疾患(7.3%)、肺炎(5.1%)、誤嚥性肺炎(3.4%)、不慮の

会長の時間(続き)

事故(2.7%)、腎不全(2.0%)と続きます。3～4人に1人ががんで死亡されています。また一生のうちがんと診断される確率は男女とも50%を超えており、2人に1人ががんに罹患することになります。21～23年では死因として新型コロナなどによる肺炎が増加するものと予想されますが、コロナの影響で通常診療やがん検診が減少した分、がんの早期発見・早期治療が遅れ、進行がんとなって発見されたため、がんによる死因も増加している可能性があります。

がん罹患の部位は、男性では①前立腺②胃③大腸④肺⑤肝臓、女性では①乳房②大腸③肺④胃⑤子宮でした。またがん死亡数の順位では男性①肺②胃③大腸④膵臓⑤肝臓、女性では①大腸②肺③膵臓④乳房⑤胃でした。男女とも肺がん、胃がん、大腸がんで死亡される方が多いということです。

ところで**悪性腫瘍(がん)**と**良性腫瘍の違い**についてですが、腫瘍とは、体の中にできた細胞のかたまりのことです。正常な細胞は、体や周囲の状態に応じて、増えたり、増えることをやめたりします。しかし、何らかの原因でできた異常な細胞が、体の中に細胞のかたまりを作ることがあります。これが腫瘍です。悪性腫瘍とは、このような腫瘍のうち、無秩序に増殖しながら周囲にしみ出るように広がったり(浸潤)、体のあちこちに飛び火して新しいかたまりを作ったり(転移)するもののことをいいます。転移には、リンパの流れに沿ってリンパ節に転移する**リンパ行性**、血液の流れに沿って肝臓、肺、脳、骨などに転移する**血行性**、お腹の中にがん細胞がばらまかれる**腹膜播種性**があります。一方、浸潤や転移をせず、周りの組織を押しつけるようにしてゆっくりと増える腫瘍を**良性腫瘍**といいます。国で例を挙げれば、ロシアのように境界を接する隣国を直接侵攻し、またミサイルを発射して離れた地域にもダメージを与えて侵略する権威主義国が悪性腫瘍国家です。

がんは、がんが発生した細胞の種類によって、癌腫(上皮性)や肉腫(非上皮性)、血液がんなどの種類に分類されます。

がんの進行度は、腫瘍の大きさ、所属リンパ節転移の数、遠隔転移の有無によって決まります。腫瘍が小さく、リンパ節転移がないか少ない、遠隔転移のないがんは早期がんで、治療(手術など)でほぼ治ります。逆に腫瘍が大きく、リンパ節転移数が多く、遠隔転移のあるがんは進行がんで、いろいろな治療を組み合わせた集学的治療を行います。集学的治療や化学療法の進歩で、近年進行がんの5年あるいは10年生存率は延長しましたが、がんが完治するところまでには至っていません。今後の研究開発が望まれるところです。



ニコニコ報告

渡邊巖会長

大念寺副住職の関本和弘様は、“もう一度法話を聞きたいお坊さんのNo.1”です。本日は、卓話よろしくお願い致します。

吉村信男P会長・中西吉日出会員・谷垣嘉輝会員・
有馬康明P会長・佃尚彦P会長・東山光秀会員・
小松玲子会員・木村和弘会員・岡崎義幸会員・
丸山佳映会員

大念寺副住職 関本和弘様、本日は、ご足労頂き誠に有り難うございます。卓話楽しみにしております。よろしくお願い致します。

松中隆会員・加藤又弘会員・山川喜平会員

大念寺副住職 関本様、ようこそ奈良西ロータリークラブへお越し頂きました。本日の卓話楽しみにしております。ヨロシクお願い致します。

幹事報告 (相澤幹事)

例会変更情報は入り口横に掲載しておりますのでご確認ください。

出席表彰



■ 11月出席表彰 ■

吉村信男P会長 (在会29年)
有馬康明P会長 皆出席1年 (在会18年)
布崎嘉樹会員 皆出席1年 (在会1年)

皆様おめでとうございます

卓話

「合理化と効率化が切り捨てたもの」

大念寺副住職布教師 関本 和弘 様

日本全国の寺院が約77,000ある中、融通念佛宗という宗派は末寺約360ヶ寺です。その九割九分が奈良と大阪にしかありません。そんな融通念佛宗の大きな特色の一つに「御回在」という風習があることです。御回在は本山から僧侶が年に一度御本尊とともに各末寺を回り、さらにその檀家へお参りし先祖の回向をいたします。

私はその御回在に二十六年供奉させていただいておりますが、お供をさせていただいた四半世紀以上の時間の中で見えてきたものがあります。

一つは大阪と奈良という場所の違い。生駒山脈を挟んで隣同士にもかかわらず、そこに住む方々の僧侶への接し方です。

もう一つは二十六年の間に知らず知らずのうちに失われていくものがあるという事です。昨日今日の変化に気づく人はいませんが、十年、二十年の長さになればふとしたときに気がつきます。その最たるものは、現代人が見えないところを軽んじるようになったことかもしれません。昔の日本人は、羽織の裏地に金の刺繍を入れて、見えない所にお金も手間もかける。これが粋なんだなんて事を言ったり、見えない所だからこそしっかり土台作りをしなければならないと言って、見えるところ以上に心を遣う。そんな日本人だからこそ「おかげさま」なんて言葉が宗教者どころか普通の人たちの口からも自然に出てくるものだったのです。

私はそんな「おかげさま」という文化、風習がこの四半世紀でどんどん薄らいでいくのを実感しております。あまりにも忙しい中、合理化や効率化を推し進める社会の中では目の前のことだけで精一杯の人たちが増え続けてきました。危惧すべきはそこに気がつかない方々が多いことです。「見えないところに心を遣う」これを言い続けるのが宗教者たる自分の役目だと思っています。



奈良新聞 11月17日掲載

奈良西 ロータリークラブ 通信

55周年に向けて
39

奈良西ロータリークラブと二名公民館は11月5日、奈良市学園赤松町のトレドの森で、「奈良市トレドの森野外コンサート」を開催した。今年がスペインのトレド市と奈良市の姉妹都市提携50周年であることを記念し、奈良西ロータリークラブが発起人となって企画した。

会場の「トレドの森」も姉妹都市提携を記念して整備された森であり、地域の方々に憩いの場として親しまれている。

当日は秋晴れの青空の下、約1000人が来場、第一部は奈良市出身のバイオリニスト岩谷さんがクラシックの名曲を演奏し、静寂の中で流れるバイオリンの音色が会場を魅了した。

第二部は市立二名中学校吹奏楽部25人が演奏し、静寂の中で流れるバイオリンの音色が会場を魅了した。

奈良市とトレド市の姉妹都市提携50周年記念コンサート
＝奈良市学園赤松町の「トレドの森」

9月24日には奈良市の大和文華館で「奈良・トレドの交流の集い」を開催、スペインの宗教文化や観光について知識を深め、10月1日には奈良市公民館で「スペインを知ろう、学ぼう」と題してスペインの歴史文化やスペイン語を学ぶ勉強会を開いた。

今回、奈良西ロータリークラブが行った3回の事業が地域の住民や子どもたちにとって国際交流のきっかけとなり、今後も両市の友好と親善を深め、継続的な発展につながることを願っている。

野外コンサートを国際交流架け橋に



奈良市とトレド市の姉妹都市提携50周年記念コンサート
＝奈良市学園赤松町の「トレドの森」



Rotary

 Club of Nara-West

第17回（通算2460回）例会予告
例会日 令和4年12月8日（木）

第2回クラブアッセンブリー

卓話：奈良先端科学技術大学院大学
ストレス微生物科学教室教授学長補佐・
産官学連携推進部門長 高木博史先生

（担当：金田・オフォス）